



横浜市立恩田小学校 学校だより 12月号

発行 令和元年11月29日



読書から世界を広げて興味を深めて

校長 古屋 澄人

11月1日から29日までは読書週間でした。恩田小学校では、さまざまな取り組みが行われました。そのいくつかを紹介します。

<図書委員会の子どもたちによる読書集会>

図書委員会の子どもたちが体育館で「やきぎかなののろい」という話を大型のペープサートを使いながら音読発表をしました。焼き魚がきれいな男の子が焼き魚をおいしく食べられようになっていくという内容をリズム感良く伝えていました。



図書委員おすすめ図書紹介コーナーでは、低学年は「フランダースの犬」(ウィーダ著)、中学年は「番号をどうぞ」をはじめとしたショートシリーズ(星新一著)、高学年は「モモ」(ミヒヤエル・エンデ著)を紹介していました。図書クイズでは、恩田小学校の人気の本が紹介され、「サバイバルシリーズ」の中から「水不足のサバイバル」が人気であることがわかりました。恩田小の子どもたちは水に興味があるのでしょうか。また、図書フレンド(保護者ボランティア)の皆さんによる恩田小図書館(図書室ではなく図書館です)の「季節のかざり」コーナーについての説明があり、季節ごとにすてきなディスプレイを作成していただいていることを紹介していました。図書委員会の子どもたちは当日に向けてそれぞれの役割を自覚し、読書に興味・関心を持ってもらえるように活動していました。

<教職員による読み聞かせ>

毎週水曜日は、「おはなしひろば」の皆さんによる読み聞かせを行っていますが、11月は、「おたのしみ読み聞かせ」という活動を行いました。誰が読み聞かせをするのかは、当日のお楽しみというスタイルです。各学年、担任の他に2名程度の教職員が読み聞かせを行いました。私も6年生と1年生に読み聞かせを行いました。いつもの担任による読み聞かせとは、一味違うワクワク感があつたようです。

10月にノーベル化学賞を受賞した吉野 彰さんは、小学校4年生のころに担任の先生にすすめられて読んだ「ロウソクの科学」(ファラデー著)がきっかけにロウソクの炎の色や芯のはたらきなどに興味をもち化学の道へ進んだということは有名な話となりました。恩田小学校の子どもたちも、本との出会いによって世界を広げ、興味関心を深めていけるよう、恩田小図書館が本との出会いの場の一助になればと思います。(恩田小図書館にも「ロウソクの科学」を購入予定です。)

だれもが 安心して 豊かに 12月10日 人權デー

子どもたちが安心して学校生活を送ることができるように本校では「横浜プログラム※」を活用して、低学年:「わたしっていいな」 中学年:「あなたのよいところは」 高学年:「欠点も見方を変えればよいところ」をテーマとして取り組みます。身近な生活の中で、差別や偏見をなくし、相手の気持ちや違いを認め合うことができる態度を育てていきます。※子どもたちに社会的スキルを身につけさせ、学級にあたたかな風土を醸成することを目標にしたグループアプローチです。